

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 26年 6月 21日			
所属学部・研究科	総合科学研究科 2年次 (留学開始時点)			
留学先大学	釜山大学校 (国名: 大韓民国)			
所属学部・学科等名	人文大学 国語国文学科			
在籍身分	交換学生			
留学期間	平成 25年 9月 2日 ~ 平成 26年 6月 20日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: D2 (留学ビザ)			
	ビザ申請先: 駐広島大韓民国総領事館(〒732-0805 広島県広島市南区東荒神町4-22)			
	<p>取得方法, 提出書類: 本人もしくは申請人の家族(この場合、住民票や身分証明証が必要)が申請します。 9時から11時30分までに領事館でビザ取得手続きを行います。それからビザの許可が下りれば、約2日以降に15時から17時までに再び領事館に赴きます。 必要なもの: パスポート、現金(無料だったと記憶しているが、用心のために7000円程度準備しておくといいでしょ)</p>			
	手続きに要した日数: 2日程度			
その他必要な事前手続き				
出国年月日	平成 25年 8月 29日			
経路	広島・西条 (新幹線) 福岡・博多 (バス 20分) 博多港 (ビートル 3時間) 釜山港 (地下鉄 40分) 釜山大学駅 (徒歩 10分) 釜山大学			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (・大学関係者) その他 <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	大学の授業が始まる月曜日の前日、つまり日曜日の午後にオリエンテーションが行われます。英語か韓国語かを選択し、どちらかひとつを受けること。2時間程度。内容は学校の映像を見たり、外国人登録証の申請方法など、大学生活に密着したこと。			
帰国年月日	平成 26年 6月 20日			
経路	釜山大学→(徒歩 10分)→釜山大学駅→(地下鉄 40分)→釜山港→(ビートル、3時間)→博多港→(バス、30分)→博多駅			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	112万2300円		
	内訳	渡航費	78000(1.3万×6)	円
		保険料	114370	円
		教科書代(学費)	9900 (56万)	円
		宿舍費	30万	円
		食費	5万	円
		その他 (交通 費)	1万	円
	(費)		円	
	(費)		円	

3. 授業について	
2013年 2学期	9月 2日 ~ 12月 18日
2014年 1学期	3月 3日 ~ 6月 20日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	「日本語語彙練習(4年)」 「現代文学特講(4年)」 「韓国語読解と作文(1)」 「韓国語会話(2)」 「留学生のための韓国文化の理解」 「留学生のための高級韓国語作文」 「日常生活と食事文化(教養)」 「現代社会とジェンダー(教養)」
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	釜山大学はバディといって手伝ってくれる学生がいます。現在はバディ1人に対して2, 3人がついてます。彼らに自分の韓国語や英語のレベルを伝えたいこと、やってみようことを伝えると一緒に探してくれるでしょう。また、普通の授業を取る際は先生と密にコミュニケーションをとることが重要だと思います。
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()
住居の広さ	約 m ² 同居人の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (1人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input checked="" type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 (給水機はありますが、電子レンジはありません。)
住居費	1ヶ月当たり (現地通貨) 約 3万 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()
留学先での住居全般に関するアドバイス	私が住んでいた自由館(女子寮)は部屋がとても狭く、シャワーとトイレは共同です。雄飛館という寮は大学の一番上にありますが、部屋が広く、シャワーとトイレは部屋についています。
(2) 医療について	
1日以上入院を要する病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> なかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()
掛け金は	年間 14370 円 補償額 死亡 1000万円, 入院1日 円 その他 ()
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	

日常的な健康について 不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由：	
留学先国の医療事情 (日本と比較して)		
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	とにかく辛い物、肉ばかり食べます。食事を摂る前に牛乳を飲んだり、辛いものから食べたりしましょう。あと、衛生観念はそこまでです。ちゃんと確認しながら食べましょう。	
(3) 危険を感じた地域、状況		
やはり深夜の繁華街や飲み屋街(西面や海雲台)は危険だと思います。また、外国人街なども、地理が分からない人にとっては非常に危ない場所なので、近寄らない方がよいでしょう。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
ダイソーやユニクロなどが大学から 20 分圏内にあります。なのでハンガーなど、生活のこまごまとしたものは日本から持っていく必要はありません。釜山大学校の寮についてですが、食事がかなり大きな問題だと思われます。なにかしら日本から食べ物を持って行っておくと安心です。電子レンジやガスコンロが使えませんので、それを考慮に入れた食べ物を用意しましょう。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 27年 3月 (当初の卒業予定年月 平成 26年 3月)	
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input checked="" type="checkbox"/> 年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他(具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	韓国語の書籍を中心に出版している出版社や、韓国と共同事業を行っている会社を中心に就職活動を行う予定。	
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	大学院は学部比べて取得すべき単位数が少ないので、1年次に早めに取得して、留学後は修士論文や就職活動に集中できるように配慮したほうがよいと思います。また、留学中から企業にメールなどを送って、就活を進めておかないと、あとが大変です。	
6. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等		
書籍、サイト名	詳細(出版社、URL等)	コメント
ヌルボ・イルボ	http://blog.goo.ne.jp/dalpaengi	韓国の今について書かれたブログ
プサンナビ	http://www.pusannavi.com/	プサンの観光情報・生活情報など
韓国旅行「コネク	http://www.konest.com/	韓国全体の情報が書かれている。
7. 自由記述(後輩へのアドバイス等)		
釜山はソウルと違って少し田舎ではありますが、ソウルとはまったく違う経験が出来る場所でもあります。積極的に外に出て、たくさんの人と知り合うことによって、韓国の新たな一面を知るのも留学の大切な経験のひとつです。サークルに所属してみるのも楽しいと思いますよ。留学を楽しんでください！		

学習の概要に関するレポート

私は2013年9月初めから2014年6月末まで、HUSAプログラムを利用して韓国の釜山大学校に留学していました。私は総合科学研究科に所属しており、約20年前に書かれた韓国人女性作家・申京淑(シン・ギョンスク)の作品『離れ部屋』を研究対象としています。そのため、韓国語のみならず、韓国文化についてより深く理解するために留学を決意しました。

釜山大学校では2学期間学んだのですが、前期はまだ韓国・釜山という見知らぬ土地に慣れず、大学の授業に対する不安があったので、外国人留学生向けの韓国語講座や日文学科で行われている4年生の上級日本語の授業を中心に受講しました。

韓国語講座は外国人に教えるための免許を持った韓国人講師の先生方が、発音や文字などの基礎的な部分から日常会話のちょっとした表現まで、外国人学習者が気づきにくい点を詳しく教えてくださいました。上級日本語の授業では、日本語と韓国語を比較することによって、言葉の微妙な差異を知ることが出来ました。例えば、日本語では、自分が今一人暮らしをしていて、その住んでいる家のことを指す場合、「わたしの家」と一人称単数で表現しますが、韓国語では「わたしたちの家(우리 집)」と表現することなどです。これを初めて聞いた時、日本語と韓国語の感覚の違いに気づかされるとともに、日本語の感覚で韓国語を理解しようとしてはならないのだと、その後の自分の学習態度を変えるきっかけとなりました。

また前期には4年生の文学の専門科目も受講しました。授業の内容は韓国現代文学や近代文学の流れを学ぶだけではなく、2000年代以降の小説を実際に読んで議論し合うものでした。留学生は私だけで、ほかは全員正規入学の韓国人の学生だったので、ネイティブの韓国語の使い方や考え方を知ることが出来ました。また、韓国文学専攻の学生がどのように韓国文学と向き合っているのか、教授はどのように考えているのかも知ることが出来ましたし、文学専攻ではない、フランス語・中国語専攻やジャーナリズム専攻の韓国人学生と触れ合い、意見を交わせたことは、さらに貴重な経験であったと思います。

後期は修士論文を書く際に必要な韓国の食事文化の講義を取りました。その授業ではグループワークで映像を作ることになり、韓国人学生とのコミュニケーションを通して、教科書では学ぶことが出来ない韓国の現代文化や食事に関する考えを知ることが出来ました。

最後に、私は今回HUSAを利用して本当に良かったと思っています。なぜなら自分の力で留学したのならばおそらく語学学校に通っただけで満足してしまい、韓国の大学で勉強するという貴重な機会を手に入れることは出来なかったからです。友人の実体験を聞く限り、正規で海外に入学することは、非常に大変なことで、自分には出来そうにありませんでした。大学で学ぶことが出来るのは専門的なことだけではありません。大学の雰囲気を知ることも立派な文化体験であり、学習であると考えます。その手間を省き、勉強や遊びに集中できたのは、HUSAのおかげだと思っています。



生活の概要に関するレポート

私は2013年9月初めからの約10か月間、韓国の釜山大学校に留学しました。その間の生活について報告したいと思います。

釜山は福岡から船に乗れば3時間も経たないうちに到着します。ソウルに比べ都市が小さく、釜山大学からほかの場所への交通や買い物にまったくと言っていい程不便を感じませんでした。私が不便だと感じたのは、寮の部屋の狭さとコンビニの品揃えの悪さ位で、後は慣れてしまいました。

大学周辺は漫画喫茶、コピーや印刷が出来る印刷屋、カフェ、安い食堂、百貨店など、留学生が生活をするためにはまったく不自由がありませんでした。日本と違っていいなと感じた点は、寮費をはじめ、学生自身が負担するお金が少ないという点です。寮費は一日三食の食事代を含んで月3万円ほどで、日本とは比べものになりません。

大学の授業は学習に関するレポートに書きましたので割愛し、その他の経験について書きたいと思います。私の語学力は留学後期でかなり伸びました。理由はいくつかあります。ひとつはボランティアで韓国人の人達に日本語を教える機会を得たからです。その時に日本語と韓国語の言葉遣いや表現の微妙な差異、歴史などに関する考え方の違いなどを知ることが出来ました。次に、韓国で出来た友人の一人で、日本語が堪能な方が面倒を見て下さり、釜山の名店を訪ねる食べ物サークルに入ったからです。そこでは食事をともにすることによって、食事のルールだけではなく、オフレコの話、韓国でその時話題になっていたことを知ることが出来ました。またサークル参加者の年齢層が幅広く、いろいろな人がいたので、大学生とだけ交流するのでは出来ない体験などをたくさん出来ました。

また、今となっては笑い話ですが、身の危険を感じた出来事がありました。友人だと思っていた人に宗教の勧誘をされ、儀式への参加と個人情報を入力を強制されたことです。儀式の時は伝統服である韓服(いわゆるチマチョゴリ)を着せられ、「文化体験」と称して韓国の「礼」のようなものをさせられました。金銭的にも身体的にも被害はありませんでしたが、それまでまさか自分がそういった経験をするとは思っていませんでしたので結構精神的に参りました。結局国際交流グループの中津さんや釜山大学校の先生に相談をしてその後は何もなかったのですが、「留学は慣れてきた頃が一番危ない」を肌で感じました。

帰国一か月前からは大学のテスト勉強だけではなく、それまで出会った人たちとお別れで忙しかったです。韓国は日本よりも人間関係が濃いため、別れはとても辛かったです。日本では人間関係に関してドライな方だったのですが、1年間の間にもっと人に頼ってもいいなどと考えを変え、積極的に人に関わることが出来るようになりました。10か月の釜山での経験は、韓国を知るためだけではなく、自分を知るのにとっても役に立ちました。ありがとうございました。

